

牛馬信仰の聖地再び

かつて日本三大牛馬市の一つとしてにぎわっていた、大山博労座での大山牛馬市。今年10月、和牛博覧会初の試みとなる畜魂祭（牛の慰霊祭）が大山寺で行われます。当時の牛馬市を幼いころ目にした大山寺の大館禅雄住職（80歳）にお話を聞きました。



大山博労座で昭和12年まで続いた、大山牛馬市の当時の様子。年数回開かれ、1回当たり3～4千頭の取り引きが行われたようです

Q. 大山博労座で牛馬市が開かれるようになったのはいつごろからですか？

大館 市が組織化して開かれるようになったのは享保15年（1730年）ごろと言われていますが、それより以前から牛馬の売り買いはあったようです。当時盛んだった牛馬信仰（※）で、大山寺に牛馬を連れて参拝する博労（牛馬の売買をする人）たちがたくさんおり、お互いの牛馬を売り買いしたのが始まりといわれています。そして、大山の牛馬市は、日本三大牛馬市の一つにあげられるほど盛んになりました。

Q. 牛馬市の様子を教えてください。

大館 牛馬市は昭和12年春まで開かれていました。当時私は10

歳でしたので、年2回（5月24日と10月24日）の牛馬市はにぎやかで、お祭りのようだったので楽しみにしていました。

今の大山自然歴史館の辺りに、当時は大山小学校の分校があり、市が開かれる博労座は草原で、運動場代わりでした。

市ときは、博労座を埋め尽くすほどの人と牛馬がいたことを思い出します。3、4千頭の取り引きがあったようです。それに合わせて土産物屋や、手品（ハトが帽子から出てきたり）、おぼけ屋敷などがあり、小遣いを握って兄と心を弾ませたのを覚えています。タケノコの皮で包んだ白飴や、焼き饅頭が楽し



全国の畜産農家の方に、大山寺の牛馬信仰の歴史を感じてもらいたいと話す大館住職

（※）牛馬信仰の始まり
平安末期に基好上人が、大山寺に祀られた大智明権現が、牛馬守護神であると唱え、牛馬安全の守護札を全国に施与してから、牛馬を連れて参詣する人が増えたといわれています。

みでした。

牛馬市には町内からはもちろん、隠岐や、広島、岡山県の北部から数日かけて参加する人もいたと聞いています。博労座へ向かう道路は、牛や馬を連れて歩く人々でこったがえしていました。市では活発な牛馬の売り買いがあり、夕方になるとけん